

## 書き初め会で穏やかなスタート

先々週、1月13日(水)、赤崎小学校の6年生が体育館において書き初め会を行いました。そして、その他の学年も日時や場所は異なりますが、同様に新年を迎えるの節目として、書き初めを行いました。

残念ながら、5年生、6年生の様子しか見ることができなかったのですが、先生方の話から、どの学年も落ち着いた態度で、真剣にそれぞれの学年の課題に取り組むことができていたようです。

後期後半が始まって、早いもので最初の2週間が過ぎました。長期の休みの後は、生活のリズムを取り戻すことが難しく、学校での学習になかなか集中できない場合も多々あります。

しかし、子どもたちは、冬休みと学校生活のけじめをしっかりとつけて、落ち着いた学校生活のスタートをきることができています。これも、冬休みの間、子どもたちが大きく生活のリズムを崩すことがないように、適切なことばかけをはじめとした、ご家庭の見守りがあってこそだと感謝をしています。ありがとうございます。

さて、力強く躍動感あふれる作品。丁寧で一画一画を大切に書かれた作品。のびのびと条幅紙いっぱいに書かれた作品。遠慮がちに小さめに書かれた作品。毛筆、硬筆の違いはありますが、どの作品も子どもたちが気持ちを集中させ、真剣に取り組んだことが分かる、個性あふれるよい作品になりました。いずれも、それぞれの教室前の廊下や各学年の掲示板に展示をしています。本来ですと、参観日の際にでもご覧いただくようお願いするところですが、今年度は、コロナウイルス感染拡大防止の観点から参観日を中止としています。何かの機会がございましたら、ご覧いただきますようお願いいたします。



## 図画工作作品



本来であれば、今週、1月28日(木)から31日(日)まで、島瀬美術センターにおいて、佐世保市小学校図画工作作品展が開催される予定でした。しかし、今年度は、先日文書にてお知らせしましたように、コロナウイルス感染拡大防止の観点から、中止となりました。せっかくの力作でしたので、現在、職員室の前に展示をしています。書き初め同様、何かの機会がございましたら、ご覧いただきますようお願いいたします。

## 佐世保市学校再編基本方針

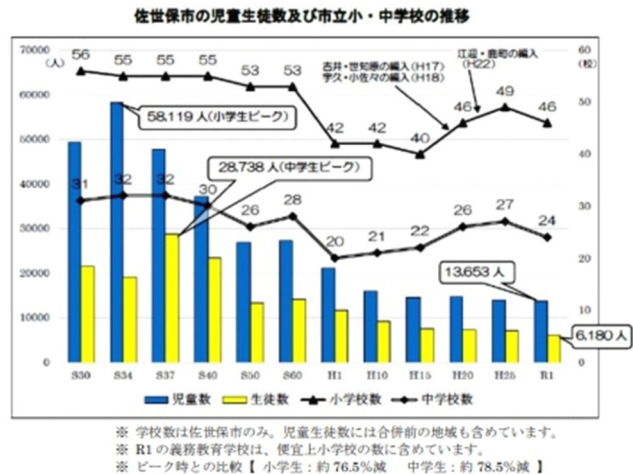
「佐世保の小中学校 今後１０年で再編進める方針」の２回目として、なぜ学校再編が必要なのかについて紹介していきたいと思います。

### ２ 学校再編がなぜ必要なのか

#### （１）学校の小規模化

全国的に少子化が進む中、佐世保市立学校の児童生徒数は、昭和３０年代のピーク時に比べて、８割近く減少し、多くの学校で小規模化が進んでいます。

小規模校には「きめ細かな指導が行いやすい」などの良さがある一方で、「クラス替えができず人間関係が固定化される」などの課題が生じる可能性があります。



#### （２）学校施設更新の時期

建築してから４０年以上経過した校舎がある市立学校は、全市立学校７０校中、４９校にのぼり、建替えなどを実施する時期を迎えています。

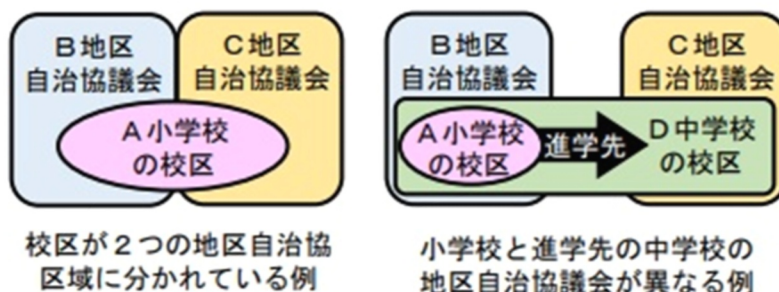
児童生徒が安心して学校生活を送るためには、学校施設の計画的な改修（長寿命化・建替え）が必要です。将来の児童生徒数を見据えた学校再編を行うことで、学校施設の改修サイクルを持続可能なものとし、効率的に新しい教育環境を整備していくことが求められています。

建築年数が４０年を超える学校数とその割合

| 学校種と校数 |        | 割合           |
|--------|--------|--------------|
| 小学校    | 34／44校 | 全小学校の 約77.3% |
| 中学校    | 15／24校 | 全中学校の 約62.5% |
| 義務教育学校 | 0／2校   | 0%           |
| 合計     | 49／70校 | 全市立学校の 70.0% |

#### （３）地域と通学区域の現状

一部の通学区域（いわゆる校区）において、学校と地域が緊密な連携をとるうえで課題となりうる現状が見られます。



次回は、佐世保市が学校再編で目指すものについてお伝えします。

上記で述べられている現状は、あくまで佐世保市全体を見た場合のもので、例えば（３）の地域と通学区域の現状のように自治協議会と校区のズレなどの課題は赤崎小学校には当てはまりません。